

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち<7月>

◆天王川公園（濃尾大地震記念碑）

所在地：津島市宮川町

交通：名鉄津島線「津島」駅 南西約 1.4km



天王川公園は1920年に開設された公園です。中央にある丸池は木曾川の支流である佐屋川に合流する天王川の名残で、江戸時代まで当時のまちの中央を流れており、水上の交通路として人々の生活に欠かせないものでした。2007年には日本の歴史公園100選（現在は250の公園が選定されています）にも選ばれています。

公園内には日本最大とも言われる藤棚があり、4月下旬から5月上旬にかけては尾張津島藤まつりが催され、毎年賑わいを見せています。

また、7月の第4土曜日とその翌日の日曜日には、宮島の「管絃祭」、大阪の「天神祭」とともに日本三大川祭のひとつとされる尾張津島天王祭が開催され、大勢の観光客が訪れます。（裏面参照）

この天王川公園の東の一角に、明治24年（1891）濃尾地震の惨害を記録した濃尾大地震記念碑があります。碑は明治25年10月、天王川畔に南面した津島警察署前に建立され、その後、現在の位置に移転しました。

碑表には、強い揺れにより土地の陥没等が発生し、294人の死者、32,000余りの家屋倒壊が発生したことなど、海東、海西二郡（津島を含む）における罹災の実情や、堤防や学校の復旧、救済の様子などが、碑裏には、建碑資金の寄付者名が刻まれています。

津島市では、この濃尾地震や嘉永7年（1854）安政東海・南海地震、天正13年（1586）天正地震の際など、たびたび田畑の陥没や泥水・井戸水の噴出、地盤の亀裂などが発生しています。

また公園内（中之島）には、ヨネノグチ像もあります。ヨネノグチ（野口米次郎）は現在の津島市本町に生まれた世界的詩人で、1893年に19歳で渡米し詩作を始め、英文第一詩集で高い評価を得たのち、1902年渡英し、自費出版した『From the Eastern Sea（東海より）』が欧米で絶賛されました。帰国後は慶應義塾大学の教授となり、浮世絵、能、歌舞伎など日本文化を海外に紹介することに力を注いでいます。

在米中に現地で出会ったレオニー・ギルモアとの間にもうけた子供が世界的な彫刻家イサムノグチです。ヨネとレオニー、イサムの半生については映画（『レオニー』／2010年）にもなっていますので、興味のある方はそちらをご覧ください。



ヨネノグチ像



濃尾大地震記念碑

◆地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆ 天王川公園の周辺には…

● 津島神社

所在地：津島市神明町

交通：名鉄津島線「津島」駅西約1.1km

明治24年(1891)濃尾地震によって、津島神社の廻廊は傾き、社務所・宝庫は倒壊し、灯籠が壊れました。

また嘉永7年(1854)安政伊賀地震では津島祭の最中に地震が発生し、津島神社の石灯籠が倒れたと伝えられています。



● 成信坊

所在地：津島市本町

交通：名鉄津島線「津島」駅西約600m



嘉永7年(1854)安政東海・南海地震によって太鼓堂玄関が倒れ、また明治24年(1891)濃尾地震によって全壊しています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。

★ 尾張津島天王祭

尾張津島天王祭は500年以上の伝統を誇る日本三大川祭のひとつで、全国の数ある夏まつりの中でも極めて華麗なものです。7月の第4土曜日の宵祭では、旧津島5ヶ村(今市場、筏場、下構、堤下、米之座)からまきわら船が出され、提灯を灯し津島笛を奏でながら天王川を漕ぎ渡る様はとて



も幻想的です。翌日の朝祭では市江車が加わり、10人の鉾持が布鉾を持って水中に飛び込み、川を泳ぎ神社まで走り、神前に布鉾を奉納します。
天王祭の舞台は、現在は天王川公園の丸池となっていますが、以前は川として流れていた天王川で催されており、この天王川に架かる天王橋から、戦国時代、織田信長が天王祭を観覧したと言われています。

7月のあいちの花

平成26年7月のあいちの花はア

ナナス類です。ア

ナナスは園芸にお

けるパイナップル科植物の総称で、主に

樹木の上などに自生する着生植物です。

花のように見えるのは花苞と呼ばれる

葉の変化した部分で、美しく色づきます。

茎が短く葉の付け根が重なって筒状の

構造になっており、ここに水を蓄えて葉

から吸収する仕組みになっています。



● ブレイクタイム

♪ 長珍酒造

蔵内にある井戸から汲み上げられる水はミネラル豊富な硬水で、酒造りに不都合な物質がほとんど含まれておらず、この水のおかげでしっかりとコシのある酒が生まれます。長珍の吟醸酒は、食中酒を意識したやわらかい口当たりで、綺麗さの中にふくらみのある旨み重視の味に仕上がっています。

創業当時、津島市では天王祭にちなんだ提灯作りが盛んで、蔵元の知人にも提灯製造業を営む者などがいたこともあって屋号を「提灯屋」としていましたが、実際に提灯作りを行っていると言われ、事が多かったため、「いつの時代においても未長く、珍しくおいしい酒、重宝される酒でありたい」との願いを込めて「長珍」という字をあてたそうです。



所在地：愛知県津島市本町3丁目62

交通：名鉄津島線「津島」駅徒歩10分
(施設の見学はありません。)

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会(仮称)・名古屋大学減災連携研究センター 平成26年7月)

